

令和6年度第2回 地域包括ケアシステム推進会議 議事録

日時 令和7年1月23日（木）14時～16時

場所 植木文化センター 多目的ホール

出席者（敬称略）

平田 貴文、木村 浩美、井手 博美、野尻 晋一、藤本 雅士、立花 久幸、宮田 みづほ、
濱松 いくみ、竹熊 千晶、本村 幸大、松川 美枝、阪本 希望子、原 満喜子、渡邊 靖子、
境 俊次、津地 尚文、秋吉 展明、中村 雪江

※欠席委員（敬称略）

宮本 大典、中野 賢誠

I 議事

（I）事務局説明

- ①熊本市地域包括ケアシステム推進会議の報告 ……資料1
- ②第3期北区地域包括ケアシステム推進方針について ……資料2、資料3

【第3期北区地域包括ケアシステム推進方針案についての意見】

○川上校区民生委員児童委員協議会長 津地委員

重点取組の仕組みづくり・場づくり・人づくりは必要なことだが、この前提にある部分の地域づくりをどこかにうたっておく必要があると思う。

私は高齢者にかかわらず、子育て支援にも関わっていく中で、1番の今の問題点は地域コミュニティの崩壊と感じている。本来であれば地域で支え合っていくべきところが今できない状態になっている。だから私たちのような関係者だけで支えなければしかたないような状態になっていると痛感している。地域の支え手がないというのも、その地域の中に自分がいてその中に所属して何かの役割をしなければいけないという意識がなくなっている。仕方がないことかもしれないが、こういったシステムを構築していく場合には、その概念というのをどこかにきちんとうたっておかないと、対症療法ばかりになってしまう。

○認知症の家族の会 濱松委員

認知症サポーター養成講座の受講生は熊本県が全国で1番多い。ただ実際に認知症サポーター養成講座を受講された方が地域の中での活動につなげる具体的な方針を進めて行く必要があるのではないと思う。

⇒参加者の挙手多数により、第3期推進方針は承認された。

(2) 活動報告 郵便局との連携について ささえりあ清水・高平・・・資料4

(3) 意見交換 第3期推進方針について、自身の立場で取り組むこと

○熊本県看護協会 木村委員

医療機関では面会制限が解除されていたが、現在コロナとインフルエンザの感染が拡大しており、いろいろな医療機関で面会制限があっていると思う。それに伴い、ケアマネジャーさんなども面会制限があり、なかなかタイムリーな情報共有が難しく、申し訳なく思っている。ただ、今は動画の活用などもできるため、病院の連携室や病棟のリハの方たちに投げかけていただくといいと思う。

訪問看護事業所はすごく増えている。在宅を訪問して回っている医療の専門職がいるので、何か地域の見守りやボランティアも含めて、貢献できる場があれば、マッチングしていただくといいかと思うので、何かそういう企画をされたらお声かけをしていただくといいと思う。

○熊本県栄養士会 井手委員

医療と介護の連携不足による課題では、病院から施設に変える、あるいは施設から病院に入院をするときの食事の面での連携がうまくとれていないような状況があると思う。福祉施設に勤めている栄養士同士では話をするが、医療との連携ができていない部分があるので、今後力を入れていきたいと栄養士会では考えている。施設や病院はそれぞれで食事の形態が違う。厚労省からも嚥下食の申し送りがするように通知が来ている。横のつながりを密にしながら、病院から施設に帰られてからもうまく連携がとれるようにしたいと思う。

○熊本県理学療法士会 野尻委員

元氣くらぶなどの住民の通いの場に体力測定や体操指導に行き、データを提出するが、フィードバックがない。これをやったことでどう変わったか、効果があったか、調査が必要。

移動の問題では、私も北区に住んでいるが、公共交通機関の本数が減っていつているし、行先も市内中心部に集中している。どこも人手不足。生活しにくくなっていると危機感を感じている。

○熊本県介護支援専門員協会 熊本市支部 藤本委員

推進方針の3つ（仕組みづくり・場づくり・人づくり）に関しては、ケアマネとしての職種、職能団体としてもかかわる部分で協力できていると思う。

認知症サポーター養成講座の支援をしているが、講座を受けた方の活動の場や啓発について、今後協力や提案ができるとよいと思う。

○山本自治協議会長 境委員

地域の活動は一時中断し、8割ほどしか復活しておらず、復活するとよいと思っている。

地域の見守りが大切で、立場抜きにして、隣近所に関心をもつことが大切。高齢者とこどもの交流の場を設定しないと交流の機会がない。

小学生を中心に寺子屋をやっている。地域の人が先生。地域のことを子どもに教えて、地域みんなで親しくなる。

はたちを祝う会を植木で開催している。対象者の 75%が参加。対象者の代表、保護者、地域の代表で実行委員会があるが、対象者が自分たちでつくりあげる会。そういった経験が、仕事にもつながるし、将来地域の役員としての活躍にもつながると思う。

○川上校区民生委員児童委員協議会長 津地委員

上位概念として地域の再構築が必要と思う。昔のようなコミュニティの再生は難しいと思うが、新しい形の人とのつながり、顔を認識しあって支え合っていく地域づくりが必須と思う。民生委員の役割は大きいと感じる。民生委員は地域の方の見守り、相談相手が大切な役割。独居の方、高齢者夫婦のところに訪問するが、日ごろ話す相手がいないのか話が長くなる。サロンを開催しているが、フレイル予防の体操、茶話会、ゲームをやっていて喜ばれる。認知症の予防のためにもコミュニケーションが大切。さまざまなコミュニティに参加するのがよい。自然発生的な井戸端会議ができにくいので、仕掛けをしていかなければいけない。そういったことも私たちの仕事のひとつだと思う。

民生委員は仕事をしている方も増えてきた。負担も大きく、なり手不足の問題もある。負担を減らしながら、上質な支援を届けるためにどうしたらよいか日ごろから考えており、住民の立場としての高齢者支援に取り組んでいけたらと思っている。

○麻生田校区自治協議会長 秋吉委員

校区で認知症声かけ訓練を行う予定。

最近、近隣のから高齢者宅の様子がおかしい、と連絡があり、様子を見に行ったら亡くなっていた。自治協議会として、地域の高齢者の方をいかに支えていくかを日ごろから考えている。

高齢者は楽しかった、友達と会ってうれしかった、おいしいものを食べて満足した、など充実した一日が必要ではないかと思う。アンケートをとったところ、子どもたちと交流したいとの意見が多かった。高齢者と子どもたちとの交流をいかにつくっていくか考えている。幸福寿命（幸せは健康につながる、健康は幸せ）をキャッチフレーズとして取り組んでいきたい。

○武蔵校区民生委員児童委員協議会長 中村委員

高齢者とこどもたちのふれあいを目的とした、福祉レクレーションを 30 年以上続けてきたが、コロナで休止。再開を予定。

福祉ネットワーク会を行っている。警察、消防、自治会長、老人会長、福祉協力員で会議を行い、気にかけてみていただきたい高齢者の情報の共有などを行っている。災害時の名簿をもらっており、災害時に電話すると感謝される。

毎週火曜日ふれあいサロンを行っている。一人暮らしの方は、日頃誰とも話さないなので、サロンに来るととてもいいとおっしゃるので、やりがいがあると思う。

自治協会の会議に出るが、自治会から抜ける方がいる。自治会に入っていない人の情報はわからない。そういう時代になってきたと危惧する。

○熊本市障がい者相談支援センターアシスト 阪本委員

高齢の方だけでなく障がいの方もこの地域でみんな一緒に生活していくというところは同じ。

障がいの分野にも地域支援がはいり、地域支援員として地域づくりの仕事に携わっている。令和 3 年にはじまり、まだ日が浅く、ささえりあの生活支援コーディネーターがされていることが大変参考になる。ささえりあの活動をきっかけに、郵便局へ障がいの分野の説明をする機会があった。

○熊本市障がい者相談支援センターチャレンジ 松川委員

障がいのある高齢者や障がい者を支える高齢者の支援では、関係機関と連携をとって顔の見える関係づくりをして、取り組んでいきたい。障がいの分野で支援する対象の範囲が広がってきている。身体障がい・知的障がい・精神障がい・発達障がい・難病も含まれる。専門的な知識が問われ、年齢を重ねていくところで重くなれるところがあるので、協力できればありがたい。障がいのあるお子さんをお世話されていた親御さんが年を重ねてこられて、病気や認知症になられて、支え手がない状況で支援につながるケースも年々増えている実感があるので、サポートしていきたい。

障がいの分野も障がい者サポーター制度にのっとったサポーター研修をしている。高齢の分野でも障がいの分野でも、思いやりをもっていきましょう、というところは重なる部分があると思うので、ご協力させていただけたらと思っている。

○熊本市 8020 健康づくりの会 渡邊委員

歯と口の健康づくりの大切さを広めるボランティア団体。地域のお祭りやイベントに参加して、子どもやその保護者を中心に、歯と口の健康、歯磨きの大切さ、噛むことの大事さということをお伝えしてきた。

オーラルフレイルの予防に取り組んでいる。噛むことで、認知症予防になると言われているので、色が変わるガムなどを使って、高齢者の方には噛むことが大切という話をしている。

先ほど担い手不足の話もあったが、5 区の中で、北支部が 1 番 8020 推進員が少ない。募集して養成講座の受けても、その後の活動につながらない。担い手につながらないのは残念。少しでも仲間を増やしていきたい。

○熊本市食生活改善推進員協議会北支部 原委員

健康を考えたとき、食事が 1 番大切。小学校区ごとに年に 1 回すこやか食生活改善推進講座を通して啓発活動を行っている。今年のテーマは便秘予防を中心に、食物繊維の多い食材を使った料理の啓発を行った。

郷土料理の継承として、崇城大学と市健康づくり推進課とメニューづくりを行い、レシピ集ができたので、今年は五霊中の 2 年生に実際作ってもらった。

イベントなどを通してだんご汁つくったりしている。とても喜んでもらっている。今度も続けていきたいと思っている。

○民生委員児童委員協議会 宮田委員

男性料理教室がコロナ禍でできなくなって、再開を求める声があって、再開。人数は減ったがわきあいあ

いと話をしながら交流している。会員を増やして充実していけたらと思う。

中学３年生を送る会をしている。子どもからの意見で、友達に会う機会になるので、どんどや、夏祭りを続けてほしい、大人になってから自分たちが引き継いでいくとの声があった。同じ形で続けるのは難しいかもしれないが、子どもたちが大きくなるまでは頑張っけて続けていきたいと思っている。

○熊本市社会福祉協議会 立花委員

小学校区の社会福祉協議会と連携をして、校区社協の行動計画を作成している。関係機関と連携して、校区の福祉事業の継続と推進をしていきたい。世代間交流のひとつとして、e スポーツの提案をしている。校区社協を通じて市社協へ依頼すると、対応できる。

ひとり暮らし、判断能力が不十分になった高齢者の方などに対して、お金の管理が不安な場合は日常生活自立支援事業を行っている。

○熊本北合志警察署 生活安全課 本村委員

担当している係が行方不明、保護、虐待、DVなどを扱っている。高齢者の行方不明などの正式な届け出は年間100件程度ある。正式な届け出がないものも相当数ある。1日5件ほど対応することもある。担当が北区と合志市のためすべて北区のケースではない。未発見の方もある。行方不明から1週間以上たち亡くなって発見されたこともあった。生活の実態を把握していなかった、家族間地域間の希薄化で早期発見にいたらないことがある。深夜帯に徘徊する高齢者がいると警察に110番した方がその場を立ち去り、警察では発見できないことがある。警察が来るまで待機する方もおり、個々人の受け止めにもよると思う。

合志市とは家族の理解を得たうえで、認知症の高齢者の写真などの個人情報提供をやりとりしている。すべての未然に防止できるわけではないが、ひとつの提案。

また、支援が必要と思う高齢者が支援を拒否することがあり対応に苦慮する。家族親族に警察から連絡し、見守りを依頼したり、区役所に情報提供したりする。地域の人から良い目でみられない場合もある。警察として単発で取り扱わず、見守りを継続している。

○認知症の人と家族の会熊本県支部 濱松委員

昨年1月に認知症の基本法ができて、「支える」から「共に生きる」という国の方針が打ち出された。今後は本人が話をできる場所をつくっていく方向になっていくと思う。

年間に全国で1万9千人以上、認知症の方で行方不明者になっておられ、300人前後亡くなったり行方不明のままだったり、大きな問題と思う。

認知症の方が増えてきて、2040年には軽度認知障害の方を含めると3.3人にひとりには認知症になるといわれる。予防していくことが大切。認知症の方の支援として、いろいろな形式のつどいを開催している。認知症の人と家族の会では、電話相談をしている。若年性認知症のコーディネーターは、電話相談だけでなく、就労支援、傷病手当の準備などを一緒に対応している。ぜひ認知症のことでいろんな相談は、コールセンターにお電話いただくとよいと思う。

1月30日には熊本県主催の認知症啓発イベントが開催される。講演会や当事者の話、サムさんのトークと運動などが予定されている。

○平田副会長 まとめ

いろいろな活動がわかり参考になる。この情報や資源をどう生かすか、住民、関係団体、行政と横のつながりを含めて、共有して実行していくことが大切。

高齢者だけでなく若者も生きづらい世の中になっている。そんな中で、委員から話がでた、地域で子どもをはぐくみ、地域で安心して暮らす活動がよいと思った。未来の見える北区になるとよい。また情報交換や知恵を出し合って、いい区になるように改善できればと感じた。

○竹熊会長 まとめ

自身が今の地域の中で育てられた実感があるので、地域での役割を担っている。立場を超えて、あと一声あと一歩共有しながら実行していくことが大切と思う。共有したことを自分たちの実践につなげていきたい。